

製品名: テネイシン R ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18790**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:50-1:200, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	TNR
別名	Tenascin-R (TN-R; Janusin; Restrictin)
遺伝子 ID	7143.0
SwissProt ID	Q92752
免疫原	アミノ酸配列範囲 1270~1350 のヒトタンパク質からの合成ペプチド

背景

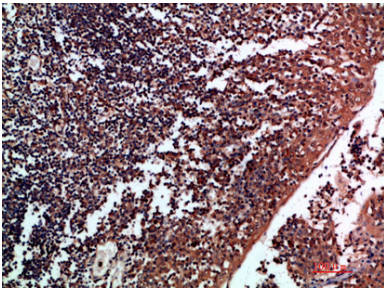
テネイシン R (TNR) Homo sapiens この遺伝子は、細胞外マトリックス糖タンパク質のテネイシンファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は中枢神経系に限定されています。このタンパク質は、神経突起の伸展、神経細胞接着、およ

びナトリウムチャンネル機能の調整に役割を果たしている可能性があります。これは、神経細胞周囲ネットの構成要素です。[RefSeq 提供、2013年8月],ドメイン: EGF様ドメインはCNTN1との相互作用を媒介します。フィブロネクチン III型ドメイン 3-5はBCANとの相互作用を媒介します。フィブロネクチン III型ドメイン 1-2および7-9はSCN2Bとの相互作用を媒介します。機能: 神経細胞外マトリックス (ECM) タンパク質は、さまざまな細胞やマトリックス成分との相互作用に関与しています。これらの相互作用は、安定した接着と分化を引き起こすか、神経突起の成長を反発および阻害することで、細胞の挙動に影響を及ぼします。細胞表面ガンゲリオシドへの結合は、RGD依存性インテグリンを介した細胞接着を阻害し、PTK2 (FAK) のリン酸化と細胞剥離を阻害します。膜表面スルファチドへの結合は、オリゴデンドロサイトの接着と分化を引き起こします。CNTN1との相互作用は、ニューロンの反発と神経突起伸展の阻害を引き起こします。SCN2Bとの相互作用は、ランヴィエ絞輪におけるナトリウムチャンネルのクラスター形成と活性制御に重要な役割を果たす可能性があります。TNR結合型コンドロイチン硫酸グリコサミノグリカンは、FN1との相互作用に関与し、細胞接着と神経突起伸展の阻害を媒介します。硫酸化炭水化物構造の高度に制御された付加は、発達過程およびシナプス維持中にTNRの接着特性を調節する可能性がある。PTM: N結合型オリゴ糖、O結合型シアリル化構造、およびO結合型コンドロイチン硫酸グリコサミノグリカンを含む。硫酸化炭水化物構造を持つN結合型オリゴ糖を含む。類似性: テネイシンファミリーに属します。類似性: 1つのフィブリノーゲンC末端ドメインを含みます。類似性: 5つのEGF様ドメインを含みます。類似性: 9つのフィブロネクチン III型ドメインを含みます。サブユニット: オリゴマーを形成します。CNTN1、TNC、およびFN1と相互作用します。カルシウム依存的にBCANおよびAGC1と相互作用します。SCN2B、PTPRZ1、CSPG3と相互作用します。組織特異性: 脳特異的。

研究分野

焦点接着;ECM-受容体相互作用;

画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析、抗体は1:200に希釈された